

平成 29 年 3 月 20 日（月）第 2 回学校説明会のアンケートでいただいたご質問への回答

1 中学校入学者募集について

Q1 中学入試について、検査日や検査内容について具体的に教えてください。

A 検査日や検査の詳細な内容については、6 月までに決定し、学校説明会の他、高等学校課や高知国際中学校・高等学校のホームページでお知らせします。

Q2 中学入試で出願する時に、小学校からの内申書等は必要ですか。

A 小学校からの調査書（内申書）は必要ありません。

Q3 中学入試に推薦はありますか。

A 推薦入試はありません。なお、願書には小学校長の卒業見込みであることの証明欄がありますので、その証明については、小学校に依頼してください。

Q4 帰国子女枠等の計画はありますか。

A 帰国子女枠といったものはありません。外国の学校から出願される際には、事前に手続きして志願先中学校の校長の承認を得る必要がありますし、志願理由書や作文、面接では、海外生活などの経験も確認できると考えます。

Q5 一期生、二期生、大きく試験内容を変更したりする場合はありますか。

A 検査内容を大きく変更する場合には、遅くとも実施する 1 年前にはお知らせします。

Q6 定員人数を増やす予定はありますか。

A 平成 33 年度の入学生から定員が 60 名から 80 名になります。その後は、児童数の増減によって検討してまいります。

Q7 県外生が入学するのに一定要件があると思いますが、それはどんな場合ですか。

A 現在、検討しておりますので、6 月までには決定して、学校説明会の他、高等学校課や高知国際中学校・高等学校のホームページでお知らせします。

Q8 適性検査の数理・自然科学分野とは何ですか。

A これまで実施してきた適性検査の分野を表しており、数理・自然科学分野は小学校の算数と理科にあたります。この他、小学校の国語、社会にあたる言語コミュニケーション分野の適性検査も行っています。

Q9 発達障害の生徒の受け入れは可能ですか。

A 受け入れは可能です。入学が決定してから、保護者の方などと、どのような支援が必要なのかご相談したいと考えています。

Q10 肢体不自由や精神障害などの障害者の受け入れは可能ですか。

A 受け入れは可能です。入学が決定してから、保護者の方などと、どのような支援が必要なのかご相談したいと考えています。

Q11 生活保護世帯の子どもも進学可能ですか。

A 可能です。選考は志願理由書と適性検査、面接、作文の結果に基づいて総合的に判断しますので、家庭の状況は関係ありません。

Q12 入試において親が何かする必要はありますか。

A 入試の検査で保護者の方にお問い合わせすることは、特にありません。

Q13 入試の段階でどの程度の英語力をつけておいたほうがいいのですか。

A 特に、ここまでは必要といったものは設けておりません。入学後、学校の教育活動全体の中で、生徒一人一人に高い英語運用能力が身に付くよう指導してまいります。

Q14 中学入学時に、優先的に身に付けてほしいスキル、考え方等は何ですか。

A まずは小学校段階の基礎学力をしっかりと身に付けてください。また、入学後に指導してまいります。読書なども身に付けたい習慣の一つです。

Q15 中学校入試に向けてどのような準備をすればよいですか。

A 小学校でしっかりと勉強していただいた学習内容を問う適性検査です。適性検査の過去問題は、教育委員会事務局高等学校課のホームページに掲載しておりますので、ご確認いただければと思います。また、全国学力学習状況調査や県版の学力定着状況調査の検査問題の知識の活用を問うB問題なども参考になるかと思えます。

Q16 コミュニケーション能力に不安がある子供は、そもそも入学は難しいのでしょうか。

A 入学者の選抜は、志願理由書、適性検査と作文及び面接の結果も基づいて行います。総合的に判断しますので、コミュニケーションに不安があり、面接が苦手であるから合格できないということはありません。国際バカロレアの教育プログラムは、コミュニケーション能力も育成されるプログラムです。苦手なことを克服することは大切なことだと考えます。

Q17 小学校の時にスポーツ経験がなくても大丈夫ですか。

A 小学校でのスポーツ経験がなくても大丈夫です。

Q18 高知南中学校と統合後(平成 33 年度)からの募集イメージが分かれば知りたいです。

A 高知国際中学校は平成 30 年度の入学者募集から通学区域はありませんし、平成 33 年度からは入学定員は 60 名から 80 名になりますが、通学区域には変更はない予定です。

2 学校全体について

Q19 「国際バカロレア認定の予定」との事ですが、認定されないという事もあるのでしょうか。

A 国際バカロレア認定校になるには、まず2年間の候補校期間を経ます。その間に国際バカロレア機構から認定されるための条件整備に向けたご指導を受けてまいります。認定される準備ができてから認定申請しますので、認定されないということはまずないと聞いております。また、日本の学校であれば、国際バカロレアの規準はほぼ満たしているとも国際バカロレア機構から聞いています。

Q20 IBの認定費用がどれくらいですか。IBの認定の継続には審査などがありますか。

A 費用はシンガポールドルでの支払いになりますので、レートによって異なりますが、申請に50万円程度、認定後の会費がMYP、DPでそれぞれ100万円程度必要です。認定後は、5年ごとに訪問審査があります。

Q21 IBコースは20名ですが、学校全体としてどんな雰囲気为学校となるのですか。

A 国際バカロレア認定は学校として受けるものですし、学校の教育目標が国際バカロレアの理念と一致するからこそ認定を受けようとしています。普通科、グローバル科探究コース、IBコースと学習の仕方は異なりますが、それぞれの学科やコースで将来グローバル人材として活躍できる生徒を育成します。様々な個性をもつ生徒が、お互いの違いを認め、尊重し合いながら、協働して学ぶことができる雰囲気の学校にしたいと考えています。

Q22 なぜ英検を指標としているのですか。TOEFLなどの方が、国際性があるのではないですか。

A 現在、英検と決めているわけではなく、もっとも皆様に分かりやすい検定であることから、目指すレベルを分かりやすくお伝えしたいという理由からあげております。英語の外部試験は、大学入試センター試験に代わるものでありますし、それぞれの検定が改善しているところですので、よりよいものを採択するよう、検討してまいります。

Q23 制服はどうなりますか。

A 制服については現在検討中です。どのような制服になるのか、費用はいくらなのかなど、決まり次第お知らせします。

Q24 スクールバスなどの予定はありますか。

A 現在のところ、スクールバスの計画はございません。

3 中学校について

Q25 家での勉強はどういったものですか。子ども独りで対応できるものですか。

A 調べ学習からドリルのような練習問題まで、教科によって授業と結びつく課題が出されます。授業の中で、課題についても指導してまいりますので、生徒自身で対応していただきたいと思っております。

しかしながら、学習習慣が身に付くまでは、ご家庭においても声かけなどをお願いしたいと考えております。

Q26 課外活動で保護者の支援が必要となることもあると説明されましたが、どのような支援が必要となるのですか。共働きでも大丈夫ですか。また、親が関わりすぎるのもよくないのではないですか。

A 課外活動としての課題研究やボランティア活動では、生徒一人一人の興味や関心に基づいてテーマを設定しますので、調査したい場所やその活動の場所は生徒によって異なります。訪問先への連絡等は、生徒本人が行うなど、学校としても、できるだけ対応はしてまいります。生徒の希望する場所や夏休みなどの長期休業期間、休日などの時間に活動する場合などに付き添いなど、保護者の方にご協力をお願いすることになります。

Q27 塾等で英語を学んでいない子も学習についていけるような配慮はしてもらえますか。

A 個々の生徒の習熟度に応じて授業中や放課後に補講するなどのサポートを行います。その際には、外国人教員だけでなく、日本人の英語教員も対応してまいります。

Q28 部活動について、かなり制限されている印象を受けましたが、部活動と学業の両立は可能ですか。

A 中学校で実施予定のMYPでは、放課後や土曜日などを活用した課外活動（課題研究やボランティア活動など）があることや、探究的な学習を進めるうえでの調べ学習などの家庭学習の時間を確保するため、部活動の活動日を制限するものです。部活動も学校教育の一部ですので、生徒には全体のスケジュールを見据えながら、学業と部活動の両立を目指してほしいと考えています。

Q29 ボランティア活動などの活動後のふり返りはどのように指導されますか。

A 振り返りのテーマを決めて、生徒一人一人がどのような学びができたかを書き記したり、発表し合い、意見交換して相互評価を行うなど、活動に応じた様々な手法で指導してまいります。

Q30 道徳の時間はあるのですか。

A 他の公立中学校と同様に道徳の時間はあります。

Q31 休日の活動は年間何日程度ですか。休みがなくなるのではないですか。

A 年間で35週の授業が想定されています。基本的には放課後と土曜日を活動に充てたいと考えておりますので、土曜日は35日程度の活動になると考えています。生徒によって活動が異なりますので、その内容によっては夏休みなどの長期休業期間や日曜日の活動もあるかと考えます。

Q32 家庭学習のみで必要な知識のすべて、得られると思いますか。

A 家庭学習のみで必要な知識のすべてが得られるわけではありません。授業は、知識伝達型の一斉授業と、生徒が主体的に活動する探究的な授業をバランスよく行ってまいります。

Q33 学習についていけない生徒にはどのように対応していくことになるのでしょうか。

A 個々の生徒の習熟度に応じて授業中や放課後に補講するなどのサポートを行います。

Q34 特別支援学級はありますか。

A 中学校では、該当する生徒が入学すれば、特別支援学級は設置されます。

Q35 早い段階で進路を決めてしまう気がしますが、逆に視野が狭くならないでしょうか。

A 地域からグローバルな課題まで学習しながら進路指導してまいります。また、教科横断的な学習を進めてまいりますので、様々な観点から生徒は自分の進路を考えることができます。国際バカロレアの教育プログラムは、生徒が自ずと将来の進路を考えていくものでもあります。かえって生徒の視野は広がると思います。

Q36 まだ何になりたいか全く進路が決まっていないので、質問された時に、決まっている子はと応えられていたが、決まっていないと大変なのかなと思った。決まっていない子の方が多いと思うがどうなのでしょう。

A 小学校卒業段階で、自分の進路が決まっている児童は少ないかもしれません。また、決まっていたとしても、これからの学びを通して、進路希望は変化していくものであると考えます。国際バカロレアの教育を通して、生徒が自分の進路について考えるよい機会になっていくものと思います。

Q37 「お家の近くであり、中学校から高校まで同じ学校だから行かせたい。」と、単純な気持ちでも合格して入れたら勉強についていけるのでしょうか。

A 学校の教育目標や学習内容などをご理解のうえ、志願していただきたいと思います。入学された後は、責任をもって指導してまいりますし、家庭学習への声かけや、学校で対応できない場合の課外活動の引率など、ご家庭の支援もお願いしたいと考えております。

Q38 パンフレットには「小学校の英語授業をしっかりと受けていれば」と書いてたが、本当にそれで大丈夫ですか。どういうふうに授業を進めていくのですか。

A 小学校では、現在は高学年において、英語に親しむことを目標として、英語教育が行われています。こうしたことを前提として、英語教育を進めてまいります。具体的には、1、2年生は、週に3時間は、外国人教員による授業を実施し、週に2時間は日本人教員と外国語指導助手による2人体制での授業を実施します。また、英語以外の時間を活用して、週に1時間は「英語で学ぶ」をテーマに、例えば、身体を動かす活動を全て英語で実施したり、社会の出来事や世界の研究について英語で学ぶ授業を、英語の教員とその分野を専門とする教科の教員の2人体制で授業を行ってまいります。

Q39 一教室の男女構成比はどうなりますか。

A 中学校では基本的には男女同数程度になります。

Q40 スマートフォンは学校に持ち込めますか。

A 携帯電話等の通信機器の持ち込みについては、検討しているところです。国際バカロレアでは情報リテラシーも重要な学習内容になりますので、そういったことも含めてICT活用についても検討しております。決まり次第、学校説明会等でお知らせします。

4 高校への進学やコースの決定について

Q41 高校進学時のコース選択の決定はどのように決まるのですか。

A 高知国際中学校の生徒は、基本的には高知国際高校のグローバル科に進学します。グローバル科の探究コースかIBコースのどちらに進むのかについては、DPを行うIBコースを選択するに当たっては、選択科目が大学進学に直結するため、十分な進路指導が必要となります。中学校の早い段階から担当教員が生徒や保護者との面談を重ね、中学3年生の段階で、生徒の適性や進路希望を勘案して、どちらのコースに進むかを決定します。

Q42 高知国際中学から高知国際高校に進学する際に試験はありますか。

A 併設型中高一貫教育校ですので、高知国際高校に進学する際の入学選抜はありません。

Q43 中学においてIBになじめず、高校から普通科に移行したい、他校を受験したいといった選択は可能ですか。

A 高知国際中学校の生徒は、基本的には高知国際高校のグローバル科に進学しますが、どうしても学習についていけない場合には、普通科への進学や他校を受験することも可能です。

なお、グローバル科の探究コースは、2年生からは普通科より探究的な活動は多くなりますが、選択科目によって理系・文系のどちらにも対応できる日本の高校タイプの学習ができますので、国際バカロレアによる学習になじめない生徒も十分に対応できると考えます。

Q44 高校から入学した中からグローバル科へはどの程度入れるのですか。

A 高知国際高校が開校する平成33年度から35年度までは、高知国際中学校以外の学校から20名が進学することができます。その後については、グローバル科への進学希望者の動向を見ながら検討します。

Q45 高校は内進生60人の他、校外生20人とありますが、その20人も中学校と同じ様に男女の比率があるのですか。

A 入学定員に男女比率を設けているのは、中学校段階ですので、高校では特に制限は設けておりません。

Q46 高知国際高等学校の入学選抜について、高知国際中学校以外からの入学希望者をどのように選抜するのですか。

A 検査は他の県立高校と同じ検査を受けていただくこととなります。A日程(入学定員の100%)及びB日程(入学定員に満たない場合)国語、社会、数学、理科、英語の学力検査と面接が行われ、この他、志願理由書の提出を求めることも同様です。

ただし、高知南中学校の平成30年度から32年度の入学生については、高知南中学校で実施する定期考査や実力テスト、各教科の評価により学力定着状況等を確認したうえで、基本的に高知国際高校の普通科へ入学できます。(学校パンフレット第2号2ページの下段参照)

Q47 高校から国際高校を受験するとグローバル科への入学枠はほんとに一握りになってしまうと思うのですが、国際高校の普通科への進学よりは追手前高校や小津高校へ進学した方が国内の国公立大学への進学は有利ではないですか。

A 県立高校では、それぞれの特色を出しながら、魅力ある学校づくりを進めていますので、学校説明会や体験入学などを活用していただき、生徒に合った学校を選んでいただければと思います。

Q48 高知南中学校から高知国際高校の普通科に入学した場合、制服は変わりますか。

A 高知国際中学校・高等学校の制服については、現在検討中ですので、決まり次第、学校説明会の他、高等学校課や高知国際中学校・高等学校のホームページ等でお知らせします。

Q49 高等学校が出来る前に入学した子供は普通科のままなのでしょうか。

A 平成 30 年度に高知国際中学校に入学した生徒は、高知国際高校に進学します。高知国際高校の入学者選抜は平成 33 年度入学生からですので、それまでは高知西高校として入学者を募集します。

5 高校全体について

Q50 中学校では部活動の制限を設けるとの事だが、高校ではどうなるのですか。

A 高校では特に部活動の制限は設けませんが、グローバル科の I B コースについては、多くの書籍を読んだり、論文を書くための文献を調べたりするための家庭学習や、課題についての調査、まとめなどの時間も必要であり、部活動については、実質的に制限がかかることになると考えます。

Q51 部活動以外の体育活動は許可制ですか。また、学校からの部外活動支援はないのですか。

A 部活動の体育活動については、自由ではありますが、大会出場の旅費などの支援は行っておりません。

6 グローバル科について

Q52 高校にて全ての学科、コースにて文系、理系を設けるとありますが、全てはグローバル科も入るのですか。

A 普通科については 2 年生から文系コースと理系コースに分かれます。グローバル科の探究コース、I B コースともに選択科目によって、文系・理系の双方に対応したカリキュラムで学習することが可能となります。

Q53 グローバル科から普通科に途中で移ることはできますか。また、その逆はあるも可能ですか。

A 普通科とグローバル科では教育課程が異なりますので、2、3 年生に進級時に科を移ることは原則としてはできません。

7 グローバル科 I B コースについて

Q54 IBコースでは、英語以外は全て日本語で授業を行うという話であったが、日本語 DP の適用外科目での DP スコアをどうやってとるつもりなのですか。

A I B コースで実施する DP では最終試験を日本語で受けられる科目を基本的には実施します。DP の基本科目の 6 科目のうち 2 科目は最終試験を英語で受けることと文部科学省が定めていますので、英語ともう一科目は、授業での使用言語が英語となります。

Q55 IB コースの生徒だけが IB の卒業試験をうけられるということでしょうか。

A 大学入試で用いることができる DP スコアが取得するための最終試験を受験するのは I B コースのみとなります。

Q56 高校の IB コースは 20 名とのことですが、国際中からの内進生からの希望者が 20 人以上だったらどうなるのですか。定員を増やす予定はありますか。

A DP については、1 講座の生徒数は 20 名程度が適切であると国際バカロレア機構から示されています。中学校に入学してから希望調査を行い、面接等を行いながら、I B コースの定員は検討します。

Q57 IB コースの 20 名は成績で決めるのですか。

A 生徒の進路希望や学習状況、DP への適性も含めて、総合的に判断して決定します。

Q58 高校で IB コースに進んだ後に IB 入試のない大学へ行きたいと希望した場合は塾等で学習する必要がありますか。

A 多くの大学で推薦入試や A O 入試が行われています。国際バカロレアの生徒はこういった入試では強みを発揮しています。また、一般入試を受験される場合も個別に指導してまいります。丁寧に進路指導していく中で、適切な指導を行ってまいります。

Q59 IB コースに留年はありますか。

A I B コースにおいても日本の高校卒業資格が得られますので、その進級規定を満たさない場合は原級留置（留年）となります。そういったことにならないよう、指導してまいります。

Q60 高校の IB コース負担は 3 年で 20 万とのことだが、課外活動でかかる費用の想定はどの程度なのですか。

A 課題研究や CAS における課外活動については、できるだけ地域で実施したいと考えております。自転車で移動できる範囲が望ましいと考えております。しかし、生徒の設定したテーマによっては、遠方に出向く必要があるかもしれません。そういった場合には旅費が発生しますので、個人負担となります。

Q61 海外の大学も含めて適切な指導をしてくれるのですか。

A 海外大学への進学についても対応してまいります。国や大学によって、対応が全く異なりますので、海外大学への進学はできるだけ早く決定することが望ましいです。

Q62 将来の夢が芸術関係(バレリーナやピアニストなど)の子供達にとっても、IB 取得は有効ですか。

A 国際バカロレアには、クリエイティブな活動がありますし、海外では芸術系の学部への進学者も多いと聞いています。国内大学については、これから進路先を開拓していく必要があると考えております。

Q63 IBコースでなければ、IB教育を受けたことにはならないのですか。

A 高知国際中学校はMYP認定校となる予定ですので、中学校では国際バカロレア教育を受けたこととなります。また、高校においてもグローバル科の探究コースや普通科においても国際バカロレアのTOKや課題論文などのコア科目を実施できないかを検討してまいります。

Q64 国がIB校を200校目指しているのに対し、大学の推薦入試等の枠が追いつかないのではないですか。その場合、一般入試での受験に対応できる力は身につくのですか。

A 国は国際バカロレアのDP認定校を200校という目標を掲げていますが、認定校は少しずつ増加しています。それに伴って、国際バカロレア入試を導入する大学も増加していますので、安心していただければと思います。また、多くの大学で推薦入試やAO入試が行われています。国際バカロレアの生徒はこういった入試では強みを発揮しています。また、一般入試を受験される場合も個別に指導してまいります。丁寧に進路指導していく中で、適切な指導を行ってまいります。

Q65 中3の時点で大学進路を決めてないとIBコースは難しいのですか。やりたいことが途中で変わったりした場合、どのようになりますか。

A 国内外の大学は、こういった学生を求めるのか、こういった科目を学習しておく必要があるのかなどの条件を大学入試方針として示しています。それに沿ったDP科目の選択が必要になりますので、中学校段階で大学や学部を決めていないと科目選択ができませんので、中学校の3年間で指導してまいります。また、進路変更があった場合には、選択科目は途中では変更できませんので、推薦入試やAO入試も見据えて、進路指導してまいります。

Q66 日本語でのIB卒業生の具体的な就職先などの進路が知りたいです。

A 日本語でのDP卒業生は、まだ高校を卒業していませんので、お示しすることができませんが、英語やフランス語、スペイン語でのDP卒業生は、様々な分野に就職しています。特に、医師などの理系分野が多いようです。

Q67 高校からIBコースに入学が可能ですか。高校からの入学で学習効果があるのですか。

A 日本の国際バカロレア認定校は、私立学校が多く、DPのみの学校が多くなっています。高校からでも成果は上げられると思います。高知県では、国際バカロレア機構の助言を受けて、より効果的な学習を進めるため、中学校段階のMYPから始める計画となっております。

8 グローバル科探究コース

Q68 IB コース以外の人でも進学する場合は 45 点満点のスコアのみで受験するのですか。センター試験は全生徒受けられなくなるということですか。

A DP の最終試験を受験して DP スコアを取得できるのは、IB コースのみとなります。グローバル科の探究コースは、日本の学習指導要領に基づいた学習を行い、大学入試センター試験も受験することができます。

Q69 グローバル科の探究コースの生徒は、通常の大学受験をすることが目標になっていくのですか。IB コースと探究コースの具体的な違いを教えてください。

A 探究コースの生徒は、大学の推薦入試や AO 入試、一般入試を受験して希望する大学へ進学することが主な目標になります。二つのコースの違いは、IB コースは大学入試で DP スコアを活用し、探究コースでは、日本の学習指導要領に基づいた学習を行い、探究的な学習を通して、国公立大学の個別試験にも対応できる学力を身に付けて、日本の大学入試制度に沿った受験をすることです。

Q70 従来の県立高校の普通科と探究コースの違いをもう少しはっきり教えてください。

A 日本の学習指導要領に基づいた学習をすることは共通していますが、探究コースでは国際バカロレアの TOK や課題論文などのコア科目のノウハウを生かした教育を実践します。また、生徒は中学校では MYP による学習を行っていますので、高校段階になりますと、探究的な学習もより深い学びにつなげることができると考えております。こうしたことから難関と言われる国公立大学の個別試験にも対応できるだけの学力を身に付けることができると考えております。

Q71 たとえば、探究コースを選択した場合、「人文」「理系」探究がどちらかに明らかに偏っている場合、どちらかの授業等がなくなる可能性はありますか。

A 国際バカロレア教育は理系にも重点が置かれた教育です。中学校の MYP においてもバランスよく学習しますし、理系希望者も一定数は確保できると考えておりますので、文系・理系が極端に偏ることはない想定しています。できるだけ講座が成立するよう努めてまいります。

Q72 グローバル科の IB コースじゃないと DP スコアが与えられないということであれば、探究コースの生徒にとって国際バカロレア認定校としてのメリットは何ですか。

A 国際バカロレアは究極のアクティブ・ラーニングであり、生徒の探究活動の評価方法も確立されています。こうした国際バカロレアのノウハウを活用して、探究的な学習を一部になりますが、取り入れていきます。日本の学習指導要領に基づいた学習を進めながら、課題解決能力を身に付けることができるなどのメリットがあります。

9 普通科について

Q73 高等学校の普通科の中でIBをどのくらい導入するのですか。

A 普通科は、基本的に日本の学習指導要領に基づいた学習を行います。現在、高知西高校で行っているスーパーグローバルハイスクールで実施している「グローバル探究」を引き継ぎ、地域課題などをテーマにした課題研究を行います。今後はその中に国際バカロレアのノウハウを生かしていきたいと考えております。

Q74 普通科の場合でもバカロレアのDPスコアは取得できますか。

A 普通科は日本の学習指導要領に基づいた学習を行いますので、DPスコアを取得することはできません。

Q75 高知南中学校から高知国際高校に入ってもついていける学力保障はあるのですか。

A 平成30年度から32年度の高知南中学校の入学生までは、高知南中学校で実施する定期考査や実力テスト、各教科の評価により学力定着状況等を確認したうえで、基本的に高知国際高校の普通科へ入学できます。そのため、現在、高知南中学校では学力向上対策として探究型学習や英語教育プログラムの取組を進めるなどの授業改善を進めていますので、これらの生徒は高知国際高校の普通科では中核となって活躍してくれるものと期待しております。

10 留学について

Q76 短期留学の費用は、自己負担ですか。

A 海外短期留学は、渡航費用などの負担が必要となりますので、基本的に希望者を対象とします。

なお、国の事業等も活用して、一定額の補助が得られるように努力してまいります。

Q77 海外研修先はオーストラリアがメインなのですか。

A 海外短期留学は現在、高知西高校や高知南高校で実施されているアメリカ合衆国やイギリス、オーストラリアを視野に入れて検討しています。

Q78 長期留学などはどうやって人が選ばれるのですか。

A 姉妹校への交換留学については、希望者を募り、留学への目的意識を問う面接や作文、学校の成績など総合的に判断して選考することになると思います。留学斡旋業者による留学については、校内での選考はありません。

11 転学について

Q79 保護者の転勤で県外に一家転住する場合、県外や外国の国際バカロレア認定校に転校することは可能ですか。

A 転学の制度はありますが、公立中学校とは異なる制度です。公立中学校の場合は、移転先の市町村の教育委員会に申し出れば、試験などはなく転学できます。既存の国際バカロレア校へ転学する場合は、転学先は公立の中高一貫教育校や私立中学校であると考えられるので、基本的に学校間で照会して転学試験を行い、合格すれば転学できます。ただし、転学試験を実施するかどうか、転学を許可するかどうかは、転学を希望する相手校側の判断になります。高校も県

立中学校と同じ手続きになります。海外の場合も転学を希望する相手校に問い合わせる必要があります。

12 教員養成と確保について

Q80 高知にIBに対応できる教師がいるのですか。また、異動もあると思うが、その点はどのようにですか。

A 大学院でIB教員養成課程を修了した教頭を中心に、現職教員に対し国際バカロレア認定校での実践研修のための派遣、国際バカロレア機構の公式ワークショップといった研修を行い、平成30年の開校に向けて必要な国際バカロレアを指導できる教員を確実に配置できるようにしております。

人事異動については、当面、MYPとDPが軌道に乗るまでは、高知国際中学校・高校で専属的な教員の配置となると考えています。その間に、他の教員の育成や採用により、国際バカロレアを経験した教員が増えていくことにより、いずれは、他の学校にも配置していきたいと考えています。

Q81 教員育成について、3日間の講習と2年間の研修だけで本当にしっかりできるのですか。IB教育を受けていない教員が教えることができるのか疑問です。

A 国際バカロレアでは生徒だけでなく、指導にあたる教員も生涯学び続ける必要があります。国際バカロレア機構の協力を得ながら、教員の指導力向上を図ってまいります。また、国際バカロレア教員の養成課程をもつ大学院は、現在のところ、玉川大学のみですが、今後、筑波大学や東京学芸大学にもできますので、こうした大学院に教員を派遣して、指導力のある教員を養成することも検討しております。

Q82 国際バカロレアの経験のある教員を外部から採用することはできないのですか。

A 現在、玉川大学大学院の国際バカロレア教員養成課程の卒業者を教頭として採用しています。今後も、国際バカロレアの経験のある教員を採用するように計画しています。

13 その他

Q83 高知県内の市町村にある就学支援制度は国際中学に在学している家庭に適用されますか。

A 適用されますので、必要な方は市町村にお問い合わせください。

Q84 現在の中学2年生年が高校入学する平成30年度の時点では高知国際中学校と高知西高校が同じ敷地にあるということですか。

A おっしゃるとおりです。学校パンフレット第2号の9ページの校舎配置図をご覧ください。北校舎に高知国際中学校の教室があり、南校舎に高知西高校の教室があります。新校舎の共用棟は高知国際中学校の生徒と高知西高校の生徒が共用で使用します。

Q85 世界の流れでグローバルな人材育成は多少なり理解できますが、良い仕事がない等の理由で若者の県外への流出が止まりません。この学校を出て、高知で活かす場があるのですか。優秀な子供達は皆、結局、外へ出てしまい、高齢者ばかりが高知に残り、しぼんで行く気がします。高知の魅力を活かすような学びの場を作ってはどうですか。（例）(もっと農業高校へ力を入れて、魅力的な学校にする等)長い目で見て、高知県としては何を狙っているのですか。

A これからの高知県においてもグローバル社会で活躍できる人材は必要とされております。また、新たな分野の仕事が創出されると言われる中で、この高知だからこそという仕事もあると思います。そういった起業家を生むためにも、柔軟な思考力をもち、どのような社会であつても対応することができる生涯学習者を育成することは重要なことだと考えます。高知国際中学校・高校で行う課題研究テーマは高知県にたくさんありますので、生徒は自ずと高知県の自然や歴史、産業について学ぶこととなります。高知の企業についても知ることとなります。大学では県外が海外に出たとしても、就職するときには高知県の企業に視野に入れてくれるものと考えています。もちろん農業教育も大切なことですが、現実問題として高校卒業して就農する生徒は、たいへん少ない状況にあります。高知県では産業振興に取り組んで一定の成果をあげておりますが、将来を担う人材はまだまだ足りません。高知国際中学校・高校の生徒も将来、高知県の課題解決に寄与してくれるものと期待しております。